



菅生学園報

第11号 2023年 新年号



理事長メッセージ



理事長
島田 幸成

＝ 無限の可能性を信じて、無限の宇宙（そら）へ響け！ ＝

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

クラブ活動の活躍が目覚ましい菅生高校ですが、昨年10月は見事、吹奏楽部が全日本吹奏楽コンクールで金賞を受賞しました。4回連続の金賞で学園としても大変名誉なことだと思います。

今回、吹奏楽部が演奏した自由曲の「宇宙への音楽」は特別な思いがありました。顧問の加島先生は当初、新進気鋭の作曲家八木沢智先生に菅生高校吹奏楽部のために特別に作っていただいた「アガステイア」という曲をコンクールの自由曲として演奏し、金賞をとるというシナリオを考えていたと聞いています。しかし、一昨年、吹奏楽部員の川内君が病気で亡くなり、その川内君への追悼の思いを込めたスパーク作曲の「宇宙への音楽」を演奏したいという部員のことを尊重し、この曲を最終的に選んだとのことでした。準備が十分でないなかのこの決断は勇気のあることだったと思います。

私はコンクール本番の演奏直前に加島先生が部員に送った手紙の内容を知る機会がありましたが、その手紙は、部員への信頼や愛情、叱咤激励、そしてここまで部員の皆さんの無限の可能性を信じてくれてよかったという加島先生の思いを綴ったものでした。部員の川内君への思いに感動すると共に、自身の必勝シナリオを白紙に戻し、部員の思いを受け入れた顧問、そして、リスクを恐れずコンクールに挑戦した吹奏楽部の皆さんに敬意を表したいと思います。

今回、私は名古屋のコンクール会場でこの演奏を聴かせてもらいましたが、部員の皆さんの無限の可能性を發揮し心を含めた演奏が、会場を飛び越え、無限の宇宙に響き渡り、そして、宇宙（そら）で、嬉しそうに曲を聴いている川内君の姿を想像することができました。また、「無限の可能性」を信じて学園を創設した島田久前理事長も川内君とともに天国でこの度の吹奏楽部の活躍を大変喜んでいただいていると思います。

吹奏楽部の皆さんにとって、今回は一生の思い出に残る特別なコンクールになったと思います。学園を代表して、心よりお祝い申し上げます。



菅生のあゆみ



副理事長
島田 洋子

＝ 多摩学院幼稚園の閉園にあたって ＝

多摩学院幼稚園が、3月の第52回卒園式をもって閉園となります。私にとっては大変残念なことですが、それが現実となる日が近づいて参りました。

様々なことが思い浮かんでいますが、創立者の島田久は幼児教育において、音楽の大切さをよく語っていました。そこで音楽の基礎を学ばせることを目的に、木琴を採り入れることとし、保護者の協力をいただき教材として一人ひとり購入してもらいました。園児は卒園までの3年間、毎日楽しんで弾かせるために「ド」はどんぐり、「レ」はレモン、「ミ」はみかん・・・というふうに木琴にシールを貼りました。それを見ながら喜んで弾いていました。

5歳児は3年間かかって「ゴセツクのがボット」を上手に弾けて卒園する、というほどに成長しました。ガボットの曲は、私が熊本の小学校で学んだ曲ですが、卒園後も時々口ずさんでもらいたい楽しい曲です。

卒園式の日には舞台上で自分の名前を英語で紹介し、大きく胸を張って小学校へと向かって行った当時の卒園児も、今は立派な社会人となって活躍しています。

多摩学院幼稚園が消えても、関係者の方々やご近所の方々にとっては、いつまでも消えることはないでしょう。地域の皆様、多摩学院幼稚園を知っている多くの方々、長い間ご支援くださいましたことを、心より感謝申し上げます。

学園トピック

(1) 永年勤続表彰

今年は菅生高校国語科の藪田達也先生が永年勤続(30年)で表彰されました。理事長室において表彰式が行われ、理事長から表彰状、記念品が贈られました。表彰式のあと、藪田先生に感想をうかがいました。

①表彰にあたっての感想

先代理事長の時代から菅生学園も変化したが、学園とともに歩むことができたことを喜びに思う。プレハブ校舎があった時代もあり、懐かしく思い出す。着任初日に学年主任の大谷先生に菅生高校での心がけを教えられ、今日まで来ることができた。

②菅生学園の思い出

修学旅行先が中国だった時代があり引率をした。大学では中国文学を学んでいたこともあり、個人的に中国へは度々行っていたが、夏に行く度に万里の長城は湿度で景色が霞んでいた。しかし修学旅行は12月であり、空気は澄み渡り長城が遙か彼方まで伸びている様は実に印象的であった。北京の売店での店員と生徒たちのやりとりも思い出深い。勤続中、1年間現地で中国社会を見る機会を得られた。

以前国際コースがあり、オーストラリア・パーカーカレッジから10数名の短期留学生が担任学級へ来た。校長が映画「クロコダイル・ダンディ」のような帽子姿であり、自国の自宅の牧場へ招かれたことも懐かしい。

③菅生学園の良さ

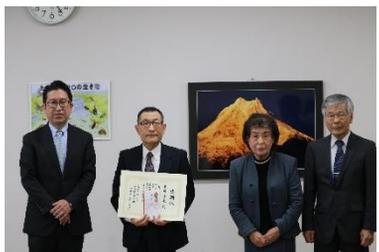
教員間の仲が良いこと。以前は教職員でボウリング大会なども開催していた。私が学生の頃に菅生高校が創立されたが、今ではしっかりと地元に根付いている。そこも菅生学園の良さだと思う。

④菅生学園に望むこと

コロナ後は様々な国際交流が復活してほしい。学園が未来永劫続いていくことを願っている。

⑤菅生学園の児童・生徒に望むこと

知識は邪魔にならないので、しっかりとため込んでほしい。人として、素直な人に育ってほしい。そうであれば何があっても助けてくれる人が出てくる。古典からは、様々な人生の知恵をしっかりと学んでほしい。



(2) 菅生高校吹奏楽部 全国大会金賞

吹奏楽部はこの度、名古屋国際会議場センチュリーホールで開催された第70回全日本吹奏楽コンクールにおいて、4大会連続となる金賞を受賞しました。曲は課題曲「憂いの記憶」・自由曲「宇宙の音楽」。「宇宙の音楽」は昨年6月に他界した掛け替えのない仲間：川内春輝君へ贈るオマージュとして3年生の強い希望により選んだ曲です。私たちの想いが宇宙(そら)にいる川内君にしっかりと届いた結果だと私たちは信じています。いつもご支援くださっている関係各位にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

菅生高校 吹奏楽部顧問 加島貞夫

※吹奏楽部は11月6日開催された第28回日本管楽合奏コンテスト全国大会においても最優秀グランプリ賞(1位)並びに文部科学大臣賞、11月13日に開催された第24回全日本高等学校吹奏楽大会 in 横浜においても金賞に相当する連盟会長賞・1位の横浜市長賞・総合1位の総合優勝並びに文部科学大臣賞を受賞するという、稀にみる活躍をされました。



学園トピック

(3) 菅生高校中等部 チアダンス部King Fishers全国3位



創部2年目の中等部チアダンス部KingFishersは、ミスダンスドリル開催の大会の中でも最大規模の大会に出場。6月11日駒沢オリンピック公園体育館にて行われた関東大会に、Song/Pom部門 Small編成で出場し、1位通過(全体の2位通過)。7月29日には、東京体育館にて行われた「第12回全国中学校ダンスドリル選手権大会」には、8名全員で出場し、強豪ひしめく中、第3位入賞となりました。

その成績により、2023年3月31日、4月1日にカリフォルニア州アーバインにて開催される「MISS DANCE DRILL TEAM U.S. NATIONALS & WORLD CHAMPIONSHIPS 2023」という全米大会への出場権を獲得しました。

4月に1年生4人が入部し、初年度4人で発足したメンバーは先輩となりました。1年生4人のうち2人はチアダンスの初心者であったため、不安もある中で今年度最初の大会でありました。予選大会前は、2年生が先輩となりプレッシャーを感じたり、メンバーのケガがあったりと気持ちの面でも体制的にも決して平坦な道のりではありませんでした。

本校のクラブは初心者も積極的に受け入れ、多くの生徒に活躍してほしいと考えています。経験者と初心者が混在する中で気持ちを一つにするのも大きな課題でありました。予選の当日は直前で椅子演技を行う生徒、出られない生徒もいた中で1位通過ができたことは、彼女たちの大きな励みとなり自信となりました。そんな苦難もあったからこそ、8人全員で全国大会に出場したいという気持ちが強まり、全員で決勝大会に出場することができ、3位入賞をもらったのだと考えています。今後も周囲のすべての方々への感謝の気持ちを表現し、前向きに進んでいきます。顧問 高橋 美紀

(4) 合唱de歓喜 「第九」コンサート

菅生高校合唱部と菅生学園初等学校すがめき合唱団が参加する「合唱de歓喜『第九』コンサート」が、12月25日に秋川きららホールで開催されました。指揮は高校で音楽の教鞭をとる村越大春先生。第一部は聖歌をラテン語で歌い、リスト編曲による2台ピアノによる演奏による第九を、力いっぱい歌いました。

初等としては3年ぶりの第九に参加をさせていただきました。子ども達とは、ただ歌えるだけではなくドイツ語やラテン語の意味や発音を理解しながら歌えることを目標に練習してきました。合同練習会や本番では地域の合唱団の皆様と一緒に歌えたり、高校の合唱部の先輩に教えてもらったことがとても刺激だったようです。プロの声楽科の歌声を間近で聞いたこと、満員のお客様の前で歌えたことが子ども達にとってとても良い経験となっていることだと思います。次年度以降も是非継続して参加させていただきたいと思います。音楽監督として様々ご指導いただいた村越先生にも感謝を申し伝えたいと思います。

初等学校 すがめき合唱 下野祐輔



(5) 幹部研修会

12月14日に開催された幹部研修会では、「菅生学園の未来が明るくあるために」と題して、中等部医学・難関大コースの進学アドバイザーを務める布村浩二先生のご講演があり、理事長、副理事長、常務理事をはじめ、20数名の幹部教職員が参加しました。

東大寺学園は関西を代表する私立の進学校(男子)で、毎年、東京大学に20名前後、国公立の医学部に60名前後が合格するという実績を誇っています。ここで渉外部長として手腕をふるっていらっしゃったのが布村先生で、今年度から菅生高校中等部医学・難関大コースの進学アドバイザーとしてご指導を仰いでいます。

幹部研修会では、これまで布村先生がご覧になった医学・難関大コースの現状をもとに分析された課題についてのお話がありました。コースの将来展望、部活と勉強との兼ね合い、教員の指導、高校との連携、募集広報などについて、

東大寺学園でのご自身の経験を踏まえた具体的なアドバイスがありました。有名進学校の極意のようなお話もあり、大変有意義な内容で、参加者は熱心にメモをとって聞き入っていました。

医学・難関大コースは2023年度は3年目を迎え、一期生が中学3年生になります。高校課程への効果的な移行、大学進学に向けての基盤となる学力の育成を目指して、教員も学び、チャレンジする日々を送っています。これからも布村先生のご指導をいただきながら、よりよいコース、進学指導を実践し、生徒たちの未来に向けて学園全体で力を尽くしていきたいという思いを新たにしました。



布村 浩二先生

元東大寺学園数学科・渉外部長、森上教育研究所客員講師

東海大菅生中学校高等学校 医学・難関大コース校長室席進学アドバイザー

書評 『医学部にはエスカレーターでのぼりなさい』



「医学部にはエスカレーターでのぼりない」 ちょっとびっくりするようなタイトルです。著者は大手進学塾を経て、系列大学に医学部がある大学付属校(中学・高校)専門の受験塾を開講している野田英夫先生です。

ユニークなタイトルに興味を持って読んでみたのですが、まず、医学部進学の恐るべき3高(偏差値、倍率、授業料)の実態、医学部専門予備校の授業料の高さに驚きました。医学部で学ぶには高額のコストが必要であるのは何となくわかっていましたが、専門予備校など、入学前の保護者の負担も並外れていることに驚きました。

この本の中で野田先生は、こうした負担軽減のためにも、系列大学に医学部がある大学付属校、特に附属中学への進学を勧めています。野田先生がこうした進学を進める理由は、負担軽減だけではありません。デジタル技術による医療の変化も理由の1つです。AIの台頭によって医師もホスピタリティーも求められる時代へと変化しており、医師としての知識やスキルだけでなく、これまで以上に人間力が求められることを理由にあげています。そして、10代は喜怒哀楽の感情を伴う様々な体験を積んで人間的な成長が促される大事な時期であり、過度な受験勉強に苦しめられることなく、学問はもちろん、幅広い活動を通して、人間性を磨いていくべきである、というのが野田先生の主張です。

著者プロフィール

大手進学塾の専任講師を経て、大学付属校専門塾「早慶ゼロ枕」直営、フランチで11教室運営。2022年には大学受験のいらない医学部受験専門塾「Dr.Aiss」(系列大学に医学部がある大学付属校(中学・高校)専門の受験塾)を開講。

付属から系列の大学医学部に進学するメリットとして

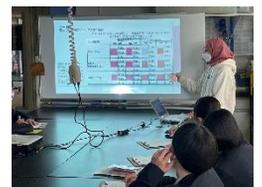
- ①競争社会で子どもたちを疲弊させない
- ②ホスピタリティーが育つ
- ③偏差値40レベルの子どもでも医学部に進学できる
- ④過酷な医学部受験勉強や高い予備校の学費負担も回避できる

といった点をあげています。

また、ゴールは医学部入学にあるのではなく、医師になった先にあり、中学受験の準備期間、そして中高の6年間を通して、子ども本人に「なぜ医師になろうとしたのか?」「どんな医師になりたいと考えるか」「医師になって何を成し遂げたいのか」ということをしっかり考えさせることが大事であると記されています。これは医学部を目指す児童・生徒だけでなく、すべての子どもたちにとって自分自身のキャリアを主体的に考え、選び取っていくために大切な視点であると思いました。

菅生高校中等部医学・難関大コースはまさにこうした「医学部へのエスカレーター」の機能を果たそうとしています。e-kagaku講座のようなSTEAM教育によって科学的知識や思考力を身に付け、様々な体験を積むことによって人間としても成長することを目指しています。また、東海大学との高連携を進め、自らの将来についても幅広く、そして主体的に考える機会を設けています。

(高橋 真実)



多摩学院幼稚園

園長メッセージ



仲野 三千代園長

新春のお慶びを申し上げます。
新しい一年が、皆様にとって笑顔がたくさん希望の年になりますようお祈り申し上げます。
2023(令和5)年の干支は「卯(うさぎ)」です。これまでの努力が少しずつ成果として現れ、大きく成長できる飛躍の年です。

園からのメッセージはその後の子育ての指標になる可能性があります。
園児一人ひとりが個性豊かに自信を持ち意欲的に伸び伸びと羽ばたき、巣立ちの時を迎えます。
教職員一同全力で愛情をそそぎ一人ひとりの多様性に配慮しながらより深く成長していくことに邁進していきます。これらの時代を担う子ども達が、発達に必要な豊かな経験が得られるよう常に子ども達の遊びの展開に留意して、心身ともに健康で素晴らしい未来をつくり出す教育・保育を行っていききたいと思います。

「感動」を見つけられる目を持つように！
私たち教育者が、また大人が「感動」することで、前向きになる原動力にもなるからです。
進化していく時代だからこそ、日常生活の中で感動を見つける目をもってほしいと思っています。
本年もよろしくお願いたします。

トピック

12月3日(土)にクリスマス会(生活リズム発表会)を実施し、第一部を保育園ぱんだ組、第二部を幼稚園たんぼ組に分けて行いました。

第一部の保育園は、楽器(鈴)「あわてんぼうのサンタクロース」、歌、遊戯「ディズニーメドレー」、リズム劇「はらぺこあおむし」を披露しました。お父さん、お母さんに見守られてパワーを貰ったようで、練習の時は緊張していた事が嘘のように、舞台上で頑張っている姿、楽しんでいる姿を見ることが出来ました。

第二部の年長組は、木琴「ガボット」、歌「こころのねっこ」、ハンドベル「きらきらぼし」、オペレッタ「金のがちょう」を披露しました。幼稚園生活最後のクリスマス会ということもあり、ピシッとカッコよい姿、友達と楽しそうに演じている微笑ましい姿が見られ、今までの練習の成果が十分に発揮されていました。さすが、年長組です。

最後は、先生サンタからプレゼントを貰い、笑顔あふれるクリスマス会となりました。

多彩なプログラムでみんな大活躍

ぱんだ組
劇「はらぺこあおむし」



ぱんだ組
プレゼント渡し



ぱんだ組
遊戯「ディズニーメドレー」



ぱんだ組
楽器



たんぼ組
オペレッタ「金のがちょう」



たんぼ組
ハンドベル



たんぼ組
木琴



たんぼ組
プレゼント渡し



活動報告

9 / 1	2学期始業式	11 / 10	サイクリング遠足	12 / 15	もちつき体験
10 / 22	第53回運動会	11 / 16	お誕生日会	12 / 19	2学期終業式
10 / 26	秋の多摩学院フェスティバル	11 / 21	交通安全教室	12 / 28	2・3号児保育修了
	羽村市幼稚園協会主催人形劇		勤労感謝の集い		
10 / 31	おもいほり(ぱんだ組)	12 / 3	クリスマス会		
11 / 3	みかん狩り	12 / 8	羽村市幼稚園協会主催お楽しみ会		
11 / 4~11	特色保育参観日				

活動予定

1 / 4	2・3号児保育始まり	2 / 2	豆まき	3 / 1	ひなまつり
1 / 6	3学期始業式	2 / 4	作品展	3 / 18	卒園式・閉園式
1 / 20	なわとび大会	2 / 15	父母の会総会		
		2 / 21	防犯訓練		
		2 / 22	マラソン大会		

菅生学園初等学校

校長メッセージ



下平 孝富校長

＝ 鳶(えん)目(もく)兎(と)耳(じ)の姿勢で教育現場に立ちたい＝

旧年中はお世話になりありがとうございました。本年も宜しくお願い致します。
今年は卯年。株式の世界では相場が跳ねる縁起の良い年だとか。しかし、昨年来のウクライナ侵攻やら懸念されるコロナウィルスの流行などを鑑みれば、どうも好材料は見当たりません。過去の卯年には銀座の土地一坪一億円という景気の良い話もありましたが、景気があの時ように跳ね上がるかは何とも言えません。一方、2011年の卯年には東日本大震災などもありました。令和の最初の卯年はVUCA時代という不透明な時代です。だからこそ、先の見通しを持ちながら情報を収集し分析することの重要性が増していると考えます。まさに「鳶目兎耳」こそが求められる姿勢と考えます。鳶の目のごとく遠くのことまで目ざとく見つけ、兎の耳のようにささいな音も聞きもらさない姿勢で教育現場に立ちたいと思います。それにしても世の中全体が、兎のように大きく飛び跳ねる1年になってほしいものです。

トピック

「恒例の味噌づくり」

5年生が4年生の2月に漬け込んだお味噌を12月10日(土)に開栓しました。2Fフリースペースには味噌の芳醇な香りが広がり、子どもたちは大興奮。種(大豆)蒔きから収穫、蒸した大豆をすりつぶし、麴と塩を混ぜて、約10か月熟成させました。まろやかなとても美味しいお味噌が出来上がりました。

じっくりと時間をかけて取り組む教育です



活動報告

9 / 1	第2回避難訓練 引き渡し訓練	10 / 26 ~ 28 10 / 29	6年生校長面談 6年生漢字検定	11 / 26 12 / 8 ~ 14 12 / 16	マラソン大会 個人面談 終業式
9 / 2	身体測定	10 / 31	ハロウィーンディ		
9 / 3	入試説明会	11 / 1	第1回入学試験		
9 / 4	首都圏模試	11 / 4	学力テスト(1~5年生)		
10 / 1	菅生祭	11 / 5	3年生保護者会		
	スッガニア・ プログラミング	11 / 12 11 / 16	第2回入学試験 縦割りウォーキング		
10 / 7	6年生三者面談				

活動予定

1 / 7	始業式	3 / 7 ~	個人面談
1 / 11	書初め大会	3 / 11	縦割りウォーキング
1 / 14	もちつき大会	3 / 16	卒業式
1 / 16	スキー教室(孀恋)	3 / 18	修了式
1 / 20	英語検定		
1 / 25	避難訓練		
1 / 28	漢字検定		
2 / 4	入学児保護者会		
2 / 9	東初協一斉研修会		
2 / 18	劇と音楽の会		
2 / 27 ~	保護者会週間		

菅生高等学校中等部

校長メッセージ

=学びは過去の失敗にこそあり?!=

下平 孝富校長

明けましておめでとうございます。旧年中はお世話になりありがとうございました。本年も宜しくお願い致します。さて最近、歴史を振り返ると様々な気づきがあると感じています。歴史は人の生きざまであり喜び、そして失敗の記録でもあります。そこには因果関係があり一つの出来事の結果が次のできごとの要因になっていることに気づきます。それをしっかり分析すれば、失敗は起こりにくいのかもかもしれません。年初には昨年の反省を十分にせず新たな目標を立てるが故に、年末には未達の項目が生じるのかもしれない。

あらゆる仕事も同様です。過去の失敗事例や世の中の変化を読み取ることが重要なかもしれません。あるテレビ番組のインタビューで、夏の甲子園で優勝した仙台育英の硬式野球部監督が「成功体験に学ぶことは無いが、失敗したことこそ学びと気づきがある。」と語っていました。今年こそ昨年の失敗を成功の糧に変える1年としたいと思います。

トピック

12月17日に秋川キララホールにて第26回音楽祭が実施されました。本格的に放課後練習を行ったのは定期試験直後からの2週間。実施1週間前に行ったりハーサルでは一抹の不安を持ったものの、その後の練習に精を出したようで本番ではクラスの纏まりが感じられました。生徒はもちろん、クラス担任の努力も実った瞬間でした。

一方、残念だったことは、本番当日に欠席者が散見されたことと、観覧者数に制限をかけたざるを得なかったことです。生徒同士の協調力を実感できるいい機会となりました。

素晴らしいハーモニーが響き渡りました



活動報告

9 / 1	避難訓練	10 / 8	オープンスクール	11 / 16	2・3年生警察講話
9 / 5~9	3年生北海道修学旅行	10 / 13	開校記念式典	11 / 18	生徒総会
9 / 14	3年生実力試験	10 / 18・19	中間試験A	11 / 26	入試体験教室
9 / 17	学校説明会	10 / 21	1年生郷土学習	12 / 1・2	中間試験B
9 / 24	校内主張大会	10 / 24	2年生実力試験	12 / 17	音楽祭
	理科実験教室	10 / 26	生徒会役員選挙	12 / 18	入試体験教室
9 / 28	スポーツ大会	11 / 5	学校説明会	12 / 19	全校集会
9 / 29	学期更新式	11 / 9	夢育て講座		
10 / 1	学習発表会				

活動予定

1 / 7	全校集会	2 / 1	第1回入試	3 / 2	3年生地域清掃
	学校説明会	2 / 2	第2回入試		2年生野鳥観察
1 / 10	2,3年生GTEC	2 / 4	第3回入試	3 / 3	3年生卒業遠足
1 / 20	英語検定	2 / 6	第4回入試	3 / 15	卒業式
1 / 21	総合学習2,3年生	2 / 7	1,2年生外部試験	3 / 18	修了式
1 / 27	文章力検定	2 / 11	入学準備説明会	3 / 27	新入生招集日
1 / 28	漢字検定	2 / 20~24	学年末試験		

菅生高等学校

校長メッセージ



峰岸 英仁校長

= コースの刷新・センバツ =

あけましておめでとうございます。今年は、本校にとりまして重要な年になります。2024年度には、特進コースの教育内容を大幅に刷新する予定で、昨年はその準備を開始しました。今年は、それを完全に仕上げなければなりません。また、中等部から医学難関大コースの生徒が高校に入学してきますので、その受け入れ体制も今年中にしっかりと構築しておく必要があります。今年の干支は、癸・卯（みずのと・う）です。「癸」と「卯」の組み合わせから、これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍するような年になると言われています。高校にとって、まさにそのような年になって欲しいと願っています。

このたび、本校硬式野球部は第95回記念選抜高等学校野球大会に選出されました。出場にあたっては、資金面においても皆様のご支援とご協力が必要です。是非ともよろしく願いたします。

トピック

岩田先生のChromebookでPearDeckを活用した授業 PearDeckを使用することで、教員がスクリーンに映す映像と同じものを生徒のChromebookに送れます。それと同時に生徒が入力した解答を教員PCで集計し表示することもできます。各々の生徒が主体的に思考し授業に参加する環境をつくれるとともに、単位時間内により多くの問題を解くことができる利点があります。また、Googleのドキュメントシートへの音声入力も行っていました。良い発音でなければ、正しく英語のテキストに変換されないの、発音練習・音読練習に役立ちます。

HTIC説明会 ハワイ東海インターナショナルカレッジ (HTIC)説明会を1, 2年生と保護者対象に実施しました。HTICの矢部様にお越しいただき、さらに本校卒業生もオンラインで参加してくれました。先生には、授業のレベルの進み方、学費、卒業後の進路など詳しく説明していただき、卒業生からは、普段の1日の生活について生の声を聞くことができました。英語以外にも、様々な内容の勉強をすることができる大変魅力のある学校です。

39期生の修学旅行 3日目はA団は本部(もとぶ)町周辺、B団は古宇利島周辺にて民家体験でした。入村式の時には緊張の面持ちだった生徒たちも退村式の際には沖縄の人々の優しさや暖かさに触れ、満面の笑みで戻ってきて、最後まで別れを惜しんでいました。

主体的な学びの実践

思い出多い沖縄への修学旅行



高校 クラブ活動報告 硬式野球部 秋季大会 優勝

吹奏楽部 A組 全日本吹奏楽コンクール 金賞, B組 第28回管楽合奏コンテスト全国大会 最優秀グランプリ賞

・文部科学大臣賞, 第24回全日本高等学校吹奏楽大会in横浜 連盟会長賞・横浜市賞

男子バレーボール部 全日本バレーボール高等学校選手権大会 都予選 ベスト8

弓道部 東京都新人大会 男子の部 優勝・個人戦 坂井 優勝

陸上競技部 第26回関東高等学校選抜新人陸上競技選手権大会 1500m 佐野元輝 7位

剣道部 女子 東京都秋季剣道大会 優勝

活動報告

9/10	第二回オープンスクール	11/5	第三回学校説明会
9/19	附属生徒 東海大学オープン キャンパス	11/12	第一学年保護者会
9/28	体育祭	11/19	第四回学校説明会
10/1~2	菅生祭	11/20	吹奏楽部定期演奏会
10/10	第一回学校説明会	11/20	吹奏楽部定期演奏会
10/13	開校記念式典	11/28~12/2	第五回学校説明会
10/25~28	定期考査C	12/15~20	第二学年修学旅行 沖縄
10/29	第二回学校説明会		定期考査D

活動予定

1/7	全校集会	2/10	第一回一般入試	3/2	追加入試
1/22	推薦入試	2/11	第二回一般入試	3/4	併願者入学手続き
1/27	推薦者入学手続き	2/15	第三回一般入試	3/7	卒業式
		2/18	一般入試入学手続き	3/12	新入生登校日
				3/18	修了式

菅生 STEAMチャレンジ (6)

STEAM教育 ⇒S(Science 科学)、T(Technology 技術)、E(Engineering 工学)、A(Art 芸術)、M(Mathematics 数学)
このコラムでは、菅生学園の各園・校が取り組む様々な特徴あるSTEAM教育をご紹介します。
今回は菅生高校中等部の理科教育をを紹介します。知崎陽一先生が解説してくださいました。

中等部理科の目指すSTEAM教育

中等部理科 知崎 陽一

STEAM教育とはScience(科学)-Technology(技術)-Engineering(工学)-Art(芸術)-Mathematics(数学)を総合的に教える教育で、従来の学びとの違いは、教科ごと別々に学ぶのではなく、関係性が深いものを横断的に学ぶ学び方です。これは、科学技術の発展の一連の歴史とよく似ています。現在までに科学者によってさまざまな法則が発見され、それを数学的に理解し直し、技術的・工学的な応用を重ねながら、我々は便利なものを作ってきました。例えばスマートフォンは、現代の科学技術を駆使して作られています。しかし、スマホの使い方はよく理解していても、どのような原理で動いているのかについて興味を示す生徒は少なく、この点は理科教員として非常に残念に感じています。私は理科を学ぶ上で最も大切なことは、先人の発見の流れを踏襲することだと思っています。そこで、まず実験で確かめられることは、できる限り実験を通じて理解するようにしています。実験には失敗が付き物ですが、たくさん失敗したほうが、失敗の原因を考える分、多くのことを学ぶことができます。実験後は、結果をグラフに表したり計算したりと数学的な解析が必要になります。いつも生徒には、数学で学んだことは理科で使えるようにすると本当の実力が付くと教えています。数学の授業で解く問題は教科書の中に与えられていますが、理科の中に出てくる数学は、その使い方も自分で考える必要があります。自分で問題を設定し、考察しなければなりません。問題解決能力を鍛えるのに最適な学びであると言えます。そして各単元の最後には、学んだことが、どのようなものに利用されているのかも教えています。スマホの例では、電波通信、音声認識、カメラ機能などについては、中学の理科でもある程度理解できます。最終的には、授業で学んだことをきっかけに、生徒が自身の回りの不思議に興味をもってどんどん調べ理解していくようになることを目指しています。



授業同様に、理科実験同好会では生徒たちが自ら興味が持ったことを科学しています。



菅生のひとこま (5)

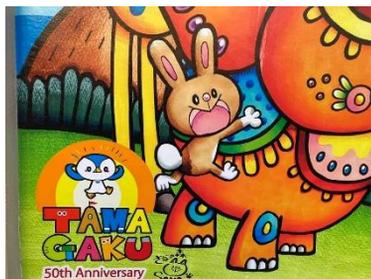
「菅生のひとこま」では菅生学園のさまざまな場所をご紹介します。第5回は多摩学院幼稚園の壁画です。



多摩学院幼稚園正門横の壁画は、羽村市動物公園の看板のイラストでも有名なイラストレーターSANAさんによるものです。SANAさんは菅生高校の卒業生であり、そのご縁から多摩学院幼稚園創立50年記念に壁画のデザインをお引き受けくださいました。多摩学院幼稚園のロゴデザインもSANAさんのデザインです。明るいデザインは元気いっぱい子どもたちにぴったり。楽しそうな雰囲気は園の様子そのものです。

多摩学院幼稚園では園児たちとともに花を育て、園庭にはいつもきれいな花々が咲いています。昨夏には羽村市の花いっぱいコンクールで優勝賞を受賞しました。

多摩学院幼稚園は2023年春にその歴史に幕を下ろしますが、一人ひとりを大切に、知育だけでなく、健康なからだづくり、豊かな心を育てる教育の実践とその精神は学園全体に引き継がれています。



父母会メッセージ

多摩学院幼稚園



多摩学院幼稚園
父母会
平野 久美子会長

新年あけましておめでとうございます。

昨年の父母の会の活動は、総会・役員定例会開催、父母の会だより発行、運動会の駐車場整理などでした。幼稚園では新しい生活様式が定着した事により、先生方の努力によって予定されていた園行事を全て開催する事ができました。

運動会でクラスの仲間と力を合わせて競技に挑む姿、クリスマス会の劇で緊張しながらも立派に役を務め上げる姿など、家では見せることのない様々な表情を見ることができ、子供たちの成長をしっかりと感じる事ができました。

年長組は3月に幼稚園卒園、4月に小学校入学が控えています。子供たちにとって節目となる重要なこの時期に更なる成長を願い、先生方のご指導の下、父母の会としてしっかりとサポートをして参りたいと思います。

今年は卯年です。みなさまにとって新しい年が、ピョンピョン跳ね回るウサギのように楽しく元気に過ごせますようにお祈り申し上げます。

菅生学園初等学校



菅生学園初等学校
父母の会
土橋 公洋会長

新年明けましておめでとうございます。

初等学校は2007年に開校し、今年度で15年目となります。その間、菅生学園の幼中高各校園には多大なるご協力を賜りましたことにまずは厚く御礼申し上げます。これまで父母の会の活動を支援していただきました学園、教職員、歴代役員の皆様はこの場をお借りして御礼申し上げます。

さて、ここ3年順調に会員数も増え、父母の会の活動は大変活発になってまいりました。5月の総会は書面での審議採決でしたが、運動会では受付や駐車場の整理・誘導、子ども達の水分補給等でお手伝いさせていただきました。また、例年1月に行っております餅つき大会は他の行事同様今年も中止となりましたが、少しでもお正月の雰囲気を感じていただくため、市内の老舗和菓子店のお餅を配布させていただきました。お味はいかがでしたでしょうか。今後とも活動内容は広報誌「えがおのすがお」で年5回お知らせいたします。

これからも学校法人菅生学園の一員として、その一翼を担っていけるよう学園の事業に奉仕してまいります。旧倍のご支援ご協力を賜りますようお願い申しあげ、新年のご挨拶とさせていただきます。

菅生高等学校・中等部

新春を迎え、謹んで心からお慶びを申し上げます。

平素より父母の会の活動に、ご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

私が父母の会に携わってから、コロナウィルス感染症も3年が経過いたしました。その中でも、昨年からは少しずつではありますが、安全性を考慮した上で学園と父母の会の協力のもと学園行事も再開され活動できるようになりました。

その中で学園生活や部活動を過ごしてきた生徒の皆さんが、今年3月に卒業を迎えます。父母の会においても、大切な子どもたちの為に学校行事に協力を頑張ってくれた役員・委員の皆さんも同時に卒業を迎えます。私は皆さんと共に父母の会の活動に携わり、学園関係者のみなさんと共に子どもたちを見守り、子どもたちを支えられたことに心から感謝を申し上げます。3月を境に卒業される方、その後も継続される役員・委員の皆さんの活動はこれから先も菅生学園への愛情を持ち続け、生徒たちの笑顔と学園のために協力を惜しまない活動を行って頂ける事と思います。

今年は卯年です。私たちの歩みは小さいかも知れませんが、確実に前へ、時にはジャンプして生徒たち一人ひとりの安心・安全を考え、大切な一年となるよう学園と父母の会が一体となり活動に取り組んで参りたいと思っております。

本年も皆さまのご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

菅生高等学校・中等部 父母の会 松石 毅

同窓会



川蝉会会長
渡邊 弘行会長

学園関係者の皆さんにおかれましては新年をご健勝でお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は温かいご支援とご協力、そしてご指導を賜り誠にありがとうございました。

東海大学菅生高等学校同窓会「菅生川蝉会」を代表いたしまして一言新年のご挨拶を申し上げます。

さて、本会では昨年11月の役員会に於いて3年振りとなります新年交歓会開催を計画いたしました。その後新型コロナウィルス感染の広がりが急加速し今回も見送る判断をさせていただきました。また、同様の理由で第5回菅生川蝉会総会もリモートでの決済を初めて試み無事すべての議案に対し賛成多数の御決議を賜りました。詳細に関しては川蝉会ホームページにてご報告させていただきます。様々な日常生活に於いて少しずつ元の形に戻りつつありますが人と人とのつながりは未だに若干の窮屈さと物足りなさを感じます。

そのような中にあり菅生高校の現在や同窓生の活躍をお知らせするべく「東京25ジャーナル・高校同窓会かわら版」に於いて過去4回にわたり掲載させていただいております。目にとめていただければ幸甚です。今後とも卒業生の皆様や現役生徒へのご支援など『絆-きずな』を第一に活動してまいりますので今年も宜しくお願い申し上げます。

編集後記



あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。今号は学園トピックの話題満載となりました。ここには載せきれないほど、他にも園児・児童・生徒はいろいろなところで活躍しています。新しい年もさらに園児・児童・生徒が力強く羽ばたいていけるよう、学園関係者全員力を合わせていきます。

2023年1月 編集・発行 菅生学園法人本部 ご意見・ご質問はこちらへ 編集担当：高橋 真実